

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 地域移行・地域生活支援部会（第7回）			
(2) 開催日時	平成30年1月31日（水）10:00～12:00			
(3) 開催場所	大田区役所 202会議室			
(4) 出席した委員、事務局	委員（部会長：青山 明子）			
	白井 絵里子	山根 聖子	相原 美晃	鶴田 雅英
	栗田 総一郎	志村 陽子	林 達彦	秋葉 照美
	井岡 幸子	山田 悠平	岡田 あい子	帯瀬 和明
	山田 紗梨	藤牧 裕佳子	岡本 洋	
	区職員：			
	区事務局：関根 あずさ（障害福祉課） 木伏 正有・森田 好美（障がい者総合サポートセンター）			
(5)内容・要旨	<p>1 確認・連絡事項</p> <p>（1）司会：鶴田委員、記録：山田委員</p> <p>（2）出欠者の確認</p> <p>（3）配布資料の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加委員から「小規模多機能型居宅介護」事業の紹介資料あり <p>（4）事務局からの連絡事項</p> <p>2 部会長の挨拶</p> <p>3 前回の振り返り（前회のご意見カードと議事録を参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事録、ご意見カードを確認した。修正提案は特になかった。 <p>4 議題</p> <p>（1）事例検討「地域移行支援を利用して退院した方の支援について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と解決策を一括して話し合いを行う。それぞれの見地と経験から意見を述べる。グループで検討を行い、その後各グループの発表を行う。 <p>○全体発表</p> <p>【Aグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも発症前に介入できたのではないかということから、相談をしないと支援につながらないということを課題とした。 ・お金の扱い、近所づきあい、家族との同居の在り方が不安を増やすことになる。 ・支援のキーパーソンは、親戚とのことだが、一般的な感覚だとどこまで頼れるか懐疑的な意見もあった。 ・今後については、インフォーマルなつながりとして自治会とご近所、家族の入院する病院との連携、本人入院時情報からストレングス視点に基づく支援、ピアサポートの関わりをさらに期待したいといった意見があった。 			

【Bグループ】

- ・課題を①御飯が食べられていない、②お金の問題（貯金がなくなったときのこと、財産処分の問題、派生して就労のこと）とした。
- ・支援のキーパーソンは、親戚のようだが、関係の持ち方は懐疑的な意見が多かった。
- ・後見人制度は制度として課題があるが、使わないといけないとすると、チーム後見が重要との意見もあった。
- ・就労については、作業所への通所が今後のきっかけを作るとの期待があった。特に、就労につながるモチベーションとしての場、食環境の管理（昼食の確保）、寄り添いに期待したいと意見があった。
- ・地域に期待するのは、民生委員児童委員の関わりを期待するとの意見や訪問看護の関わりを期待したいとの意見もあった。
- ・本人の暮らし方を確認するための表現を助けるためにもピアサポートグループとの関わりが大切になるといった意見もあった。

【Cグループ】

- ・すぐに取り組める課題と時間を要する課題とを分けて整理した。
- ・お金のこと、仕事を見つけること、成年後見制度の運用、福祉・医療との連携については、時間を要する課題とした。
- ・すぐできる課題としては、家族と暮らしたいか気持ちの確認をすることを通じて、病院や地域のつながりの支援を模索できればという議論をした。
- ・一方で、そもそも、入院する前になんとなかできなかったのかについても討議をした。
- ・協議会としてできる役割は、障害理解啓発の動きを進めることであり、地域住民の変化に気づいたときに、支え合う仕組みづくりのために一般的な情報の発信を町会にできたらという意見も出た。

【Dグループ】

- ・そもそも発症しなくてもよかったのではないかと。ストレスをため込まないような、体制が必要であったとの意見が出た。
- ・医療との連携について議論をした。精神疾患についての理解不足が背景にあり、認知症啓発のオレンジカフェのようなカフェづくりを行うことも一考との意見もあった。本人が安心して外に出られるような環境づくり、支援づくりも大事にしていきたいとの意見もあった。
- ・他方で、630 調査で地域統計を確認することも大事との意見もあった。
- ・入院中の本人の意向を確認することも大事。それを推進する地域移行を進めるために、サービスの単価を見直す視点も大事との意見もあった。

○質疑応答

Q：そもそもを防ぐためにできたことは、精神障がい支援者としてなにがあったのだろうか？

A：統合失調症の理解が進んでいたらとの思いはある。家族への支援が充実し

ていたら、こんなことにならなかったのではないか。グループ討議では、両親の介護から支援につながることもあるとの報告があった。保健師からの支援の充実も必要に思う。病気の見方という点では、実際、統合失調症の人は優しい人が多いと話される人が多い

Q：統合失調症の人が優しいかどうかは障害理解とわけて考えてほしい。精神障害は、ひとりの人間をとっても症状に変化があり、一様に表現できない。ましてや同じ診断名でひとくりに評価できない。精神障害は〇〇だといった一般化は難しく、かえってそれは図式化した支援をもたらす差別や抑圧を生むことを留意してほしい。

(2) 第3回本会に向けて

①報告について：

- ・具体的な成果：グループホーム連絡会のこと、進展をもとに報告することを確認。
- ・スライド6枚目は次月確認とした

②資料作成者が確認された。

5. その他（情報提供）

①グループホーム連絡会からの報告

- ・グループホームのプロフィール票を確認。まずは、地域庁舎窓口への情報提供のイメージで制作中。新規情報開設情報や空き情報は、プロフィールとは別にし発信できるよう検討中

②体験型グループホームの運用開始

【幸陽会ホーム（大田幸陽会運営）】

- ・男性利用に限る状況だが、実際に利用者が出てきた。自立生活を希望している方。障害種別の限定は特になし。スケジュールがあえば、4名のグループホームに入居ができる体制もとっている。

【ホーム蒲田（ブシケおおた ホームブシケ運営）】

- ・ワンルームの部屋での体験を用意している。地域移行希望者だけでなく、自宅からのレスパイトでの利用もある。

③おおた TS、社会福祉士会の定例会、就労支援部会の学習会など情報提供があった。

④個別の意見

- ・第3回本会にむけて運営会議に反映するための部会意見を討議する時間を作ってもよいと思う。ぜひ検討してほしい。

※次回（第8回）日程

作業部会	2月9日（金）	10時～
部会	2月22日（木）	10時～